

【発行】大船渡仮設住宅支援事業  
〒022-0004  
岩手県大船渡市猪川町長洞 62-1  
大船渡仮設住宅支援事業事務局内  
TEL : 0120-628-638  
E-Mail : ofnt\_otoiawase@yahoo.co.jp  
Web : http://ofunatocity.jp

# はまらい

大船渡仮設住宅 支援員新聞

No.1 8月号  
2012.

## 大田・平林 仮設団地

### 夏祭り開催 来場者100名超

#### 埼玉のボランティア団体が主催

鮎が美味しそうな煙を立てて、  
待つ人の笑顔誘っていました

7月14日(土)、大田・平林仮設団地内で夏祭りが開催されました。朝には大雨に見舞われたものの晴れ間が覗き始め、昼ごろには100名もの来場者で賑わいました。

「市民ボランティアふじみ野(以下、ふじみ野)」が主催したもの。ふじみ野は大船渡市に継続的に来ておりその度に復興の状況を肌で感じるそうです。最初に彼らが大船渡を訪れたのは去年の4月。震災直後の大船渡市にて、がれ



き処理のボランティアをされていました。その時、メンバーの小林久美さんは仮設に住む佐々木千枝子さんと出会い、支援員を紹介してもらったことが縁で今回の祭りの開催に至りました。

ふじみ野が出店や出し物の準備を行い、仮設支援員は交通整理など安全にお祭りが進行できるようにお手伝いしました。

夏祭りは午前と午後の2部構成で行われました。午前の部は子供向けの出店や

#### 子供たちが元気に遊べるイベントを

遊び場を設け、普段なかなか思う存分遊ぶことができない子供たちはヨーヨー釣りや水鉄砲などで楽し

大田仮設に住む小川せつ子さんは、「こんなに大きなイベントはしばらくぶり。私の孫や子供たちも喜んでいたので、今後も子供たちがこのように元気に遊べるイベントをたくさん開催してほしい」と話してくれま

した。ふじみ野の小林さんは、ボランティアにきた当初は「仮設にお邪魔して積極的にボランティア活動を行うのはご迷惑かなと思っていました」と言います。「大船渡は『また来ます』と言いたく

なる場所。笑顔を見るとやりがいを感じる。今後も、団体と団体ではなく人と人のつながりを大事にして活動を続けていきたい」と思いを語ってくれました。住民と支援者が繋がることの重要性を感じます。

#### どういった経緯から大船渡で活動するに至ったのですか

私は昨年4月から大船渡市で活動しています。私たち、「チャイルドファンド」が入った震災直後の大船渡は、コミュニティが寸断されていた状態でした。当時NPOが手薄で、大船渡市社会福祉協議会に依頼され、避難所や仮設団地で被災地の現状についての聞き取り調査をしたのが始まりです。

#### 今までのような活動をしてきましたか

仮設団地でのコミュニティ形成を活動の一つとして掲げ、座っておしゃべりし合える場所を提供するためにベンチを作ることにしました。ベンチひとつでその場の空気が変わり、誰かが座っていると、たまたま通りかかった人との会話が始まります。それがだんだん、近所同士の繋がりになっていきました。次のステップとして目を付けたのが畑作りでした。ベンチで話しているだけよりも、何か目的に向かって作業し合うことで人との関係が深まると感じたのです。そして長洞団地に出来上がったのが、共同農園

### 住民の方々と同級生のような 関係を続けていきたい

あの人に  
インタビュー

認定NPO法人  
チャイルド・ファンド・ジャパン  
船戸 義和さん



(上) 船戸さんと友結ファームの看板 (下) 住民達の憩いの場を演出したカラフルなベンチ

「友結(ゆうけつ)ファーム」。農業作業を通じて人と人がふれあいが、住民による自主運営組織も発足した結果、住民間

#### どんな想いで活動されていますか

の結束・絆がより深まりました。気仙という土地柄だからなのか？魅力的な人が多いですね。支援する側、される側という関係ではなく、一人の人間として向き合い、本音で語るような関係を築くにつれて、私たちも助けられていることが多くなっています。

ファームの活動を通して、何十年も年上の方が私を「同級生だから！」と呼んでくれました。同級生は、数年間一緒にいて卒業したら離れ離れになります。時々お互いの近況を思い合うような存在です。つまりこの先も、仲の良い同級生のような気持ちで繋がっている関係を築けていることが本当に嬉しいです。

でも、まだ現在進行形で、これで完成形だとは思っていません。来年の3月で大船渡での活動を卒業しても、仲の良い同級生のような関係を続けていけたらと思っています。

# 末崎町仮設団地 仮設住宅支援員の一日



この事業は北上市と大船渡市が提携し、9月に発足しました。私たちが目指すのは、住民の方々が健康で前向きな生活を送れる環境づくりと、皆さんのお

手伝い、関係団体との繋ぎ役となることです。今回は末崎町の菅原支援員の一日を追う形で、私たちの仕事の流れを紹介したいと思います。

高年齢で独居の方も多いため、毎日全世帯を巡回します。皆さんの顔が見られ、他愛も無いおしゃべりが出来る私たちが支援員も嬉しくなります。しかし昼の間お仕事で不在だったり、全ての方と顔を合わせるのはなかなか難しいとこ

最近、住民やボランティアの方々との交流会をした際、住民の方から「こんなに心から笑ったのは久しぶりだ」という言葉が出たそうです。「こんな声はこれまで初めてだった。住民の笑顔が見られると嬉しい。」と菅原支援員はとてもいい表情で、これからもこの仕事に意欲的に取り組んでいく事を語ってくれました。



巡回中の一コマ。他愛も無い会話がとてもうれしいです

## 菅原支援員の一日のスケジュール

	集会所の掃除、整頓など
8:30	出勤 ミーティング
9:00	①巡回(2人一組で回る) 巡回時の情報共有
10:00	お茶会
12:00	お昼休憩
13:00	ミーティング
13:30	②巡回/書類・チラシ作り
15:30	団地内のゴミ拾い/③巡回
17:00	日報などの記入
17:30	業務終了

仮設支援員の仕事は住民の皆さんの理解があつてからこそです。「お手伝い」と「つなぎ役」の私たちが通じて、住民の方々がより前向きで健康的な生活を送っていただける事が私達の願いです。

## くらしの知恵

### 仮設での夏の過ごし方

#### 社協さんに聞いた

大船渡市社会福祉協議会生活支援相談員主任、柏崎きよ子さんに暑さ対策を聞いてみました。

特に高齢者の方は、温度を感じにくくなり誤った対処をしてしまいます。気をつけるべき項目として以下の3つを挙げてもらいました。

#### すだれ等を使って日陰を作る工夫も



① 仮設住宅は高温になりやすい構造ですので、クーラーを上手に使う仮設内の温度上昇を抑えましょう。

② 喉が乾いている自覚が無くても、1時間に1回程度の水分補給を行いましょ。スポーツ飲料は糖分が多く、摂りすぎは良くありません。塩分摂りすぎは梅干しがお勧め。

③ 過度に着込んでしまう傾

向があるので、過ごしやす性格好を心がけましょ。

まずこのような対策をとる事が大切ですが、万が一体調が悪くなった場合は、「水分を摂り、風通しの良い日陰に避難しましょ。めまい、頭痛、ふらつき等の症状が出た場合には病院で受診を」とアドバイスしてもらいました。

## Information

- **ポケモンと一緒に遊ぼう**  
【日時】8月8日(水)13:00~16:00  
【場所】黒土田仮設団地
- **けせん・まちの保健室**  
【日時】8月10日(金)10:00~13:00【場所】永沢仮設団地
- **手作りクレヨンでうちわ作り**  
【日時】8月10日(金)12:00~16:00【場所】轆轤石仮設団地
- **長洞夏祭り**  
【日時】8月17日(金)13:30~15:30【場所】長洞仮設団地

- **線香花火ナイト**  
【日時】8月11日(土)19:30~20:30【場所】宮田仮設団地
- **E-PATCH**  
【日時】8月17日(金)9:00~15:00【場所】杉下仮設団地※E-PATCH=子供向け学習支援のイベント
- **男サロン(男性限定の囲碁、将棋イベント)**  
【日時】毎週火曜日 10:00~15:00【場所】後ノ入仮設団地

## 編集後記

この新聞を発行している広報担当は7月に結成されました。取材、執筆、編集と初めての仕事が続きます。どの仕事も多くの発見があり大変面白く、その中でも取材の面白さは格別です。

取材を受け入れてくれた方には取材慣れしていない方も多く、最初は戸惑っていましたが、次第に話に熱がこもってきて聞いている側も興奮してきます。その中でポロッと出て来る言葉にその人の本当に伝えたいものがあるの

だと初めて知りました。そんな言葉が出てきた瞬間に取材する側、される側に特有の良い空気が流れます。その時にその場に居合わせた喜びと、この空気を読者に伝えなければというプレッシャーの両方を感じることになります。この感覚を楽しみながら「記者」として頑張っていきます。

ご意見・ご感想は、こちらまで。  
大船渡市猪川町字長洞 62-1  
大船渡仮設住宅支援事業事務局内  
TEL: 0120-628-638  
E-Mail: ofnt\_otoiawase@yahoo.co.jp

## 今月のスマイル

### AKB48と同じくらい練習が好き!



ドラムファンの指使いが難しい!!

長洞仮設団地には「放課後の笑顔をと戻そう」と結束し立ち上がったブラスバンドがあります。その名も「友結(ゆうゆう)バンド」。

震災の影響でクラブ活動が出来なくなった子供たちは、震災後の雰囲気のおかげで楽器を演奏することをた

発起人である金野洋子さん(57)が中心となり、東京のボランティア団体から楽器の支援を受けました。

めらったそうです。そんな中でのバンドの立ち上げでした。友結バンドは毎週水曜日18時~20時まで、大人の指

導をもらいながら、10名以上のメンバーが活動しています。トランペットを担当する赤崎小学校6年の山崎麻巳子ちゃん(11)の眼差しは真剣そのもの。「AKBと同じくらい練習が好き。ドラムファンの指使いが難しいけど、すごく楽しい!」と大好きなアイドルグループに例えてコメントしてくれました。楽器を演奏する事で子供たちは笑顔を取り戻したのです。現在団員募集中で、市内在住の小中学生を歓迎しています。

大船渡楽器サポート  
TEL: 080(1820)7492